

「小金井市 認知症安心ガイドブック」実施評価表 まとめ

1 小金井認知症安心ガイドブック（以下「ガイドブック」）の作成について

- ・平成27～28年に「認知症ケアパス作成検討委員会」を設けて作成。
- ・認知症の方本人よりも、むしろ家族など周りの方が読むことが想定された。
- ・沢山の情報を載せてページ数を増やすことよりも他の刊行物と重複する内容は削り、手に取りやすく印刷部数をより増やせるリーフレットの形にした。
- ・まず地域包括支援センター（以下包括）への相談につながるよう、包括の案内を大きく掲載することとした。また相談対応時に説明しやすい形態にした。

2 事前課題で把握したこと

- ・分かりやすいという意見がある一方、特に専門職（社会福祉士会）からは分かりにくいという意見が聞かれた。
- ・チェックリストは使用してみたいという声がかかる反面、市民のみの使用だと適切な結果を得られていない可能性がある。
- ・普及啓発を通して気づきを得られた（市民が認知症について気にとめる／施策についての改善点／必要な人にわたっているのか疑問）

3 事前課題から考えられること

- ・「分かりにくい」という意見からは、具体的な解決策や他の刊行物に掲載済みの情報など、多くの情報が網羅されているもの、高齢者が一人で読んでわかるものが期待されている。  
（⇔量があるため後で読むという市民が多かったという結果も得られている。）
- ・ただガイドブックが渡されるだけではなく、包括への相談につながりその人その人に応じた適切な説明を受けることが必要。
- ・社会参加・予防の項目が少なく、認知症の予防や認知症の重度化防止、認知症の方が社会参加できるような地域資源などがよりあるとよい。（認知症の方の社会参加や予防についての普及啓発があまりない。）
- ・ガイドブックの活用状況を把握しづらく、市民からの意見を拾うのに現状より工夫がいる。
- ・ガイドブック及び認知症施策の周知に工夫がいる。